

# 同窓会会報

第78号

平成17年10月1日

発行所

茨城県水戸市鯉淵町5965

鯉淵学園同窓会

☎319-0323 TEL 029-259-2811  
振替口座 宇都宮3-1632番

## 鯉淵学園創立六十周年記念に寄せて

同窓会会長 高橋隆三

来る十一月一日に私達の母校鯉淵学園（以下学園）は創立六十周年を迎えます。本日に喜ばしいかぎりです。この記念すべき節目に学園は記念事業として「農産物直売所（以下直売所）を建設する」ととし、本会も全面的に支援するとして大会決定に基づいて、募金目標二千万円を掲げて募金活動を実施してまいりました。

八月二十五日現在の募金額は一千二百六十二万円、目標比は六十三・一%です。ここに募金協力頂きました会員各位に對し会を代表して心から感謝の意を表します。特に九期生募金推進委員の田所守氏については自主的に電話での呼び掛け等特段の働きかけをされ、その結果九期生九十五名中九十一万円の実績を生みました。皆様にご報告申し上げ同氏に對し心から感謝申し上げる次第です。

学園は直販所の建設につき建物、設備用品、駐車場および周辺整備、諸経費合わせて総額一千五百万円の予算で記念事業を進めています。建設費等について予

算的裏付けは全くなく、本会の支援確約を得ての事業の着手です。こうした状況をふまえて役員会に諮り、本会として募金目標二千万円達成するまで募金活動を継続する事にいたしました。

募金状況については別掲の記念事業募金支部別別実績表のとおりで、支部によっても期別にみても其々に大きな開きがございます。各支部におかれましては目標比を六十%以上に高めていただき、期別では二十期以降の皆さんに今一步の支援を期待します。

募金目標達成のため未応募の会員の皆様、ご配慮ご英断をもって一万円募金にご協力下さるようお願い申し上げます。

直売所の建設はほぼ完了、担当職員も配置済み、九月十九日にプレオープン運びで、聞くところによれば近在の農家とも出品につき契約済みで本格的な開所が待たれます。

直売所建設の目的として学生の販売実習教育に役立てるのは勿論のこと、加えて卒業生にもアンテナショップとしてご

協力いただき学園との連携を図ることが期待されます。生産物の出品等ご支援をお願いします。

学園をとりまく諸情勢は年を追う毎に厳しくなっております。特に財政運営に於いて欠くことの出来ない国庫補助、農業中央団体寄付金、茨城県補助金は減額の一途を辿り、平成十七年から茨城県補助金全額カット、平成十八年度から国庫補助の見直しと大幅な削減、農業中央団体寄付金についても前年対比十%減のお話があったとのことです。私が農民教育協会理事に就任し関わった決算書の収入について、主な科目につき平成十一年と十六年を対比すると別表のとおりです。

学園は還暦を迎えて重大な局面に直面しています。古くは国や農業中央団体によって財政の大半が支えられてきました。今日では自助努力が不可欠の状況です。社会のニーズに適合しつつ建学の精神を堅持した教育を行い、期待されるニューファーマー育成の教育機関として多方面から支持されなければなりません。つまり毎年百名の学生を確保することが健全化の道です。

全国の学園の卒業生の皆さん、各都道府県支部当たり二名の学生をわが母校に送り込む支援にトライしようではありませんか。

本会と学園との協力関係については全てにおいて万全ではなかったように思います。本会の事務局長選任にあたっては十年余にわたり現役リタイヤ後の卒業生にお引受いただきました。しかし、昨年から会計等事務処理については学園に担当者を置いていただき、今後は本会運営の中核である事務局長については在職卒

業生があたるよう配慮する旨の確約を学園長から得ております。

また、昨年三月と本年八月に農民教育協会理事長、常務理事と本会三役懇談会を行い相互理解に努めるなど協力関係は確立しました。

学園は農業経営科、生活栄養科学科の教育のほかに国の補助による各種研修事業を実施してまいりました。平成十八年度にはわが国の社会問題でもあるフリター・ニート対策について、いままでの国庫人件費補助の見直しとの関連でそれらの研修受け入れも必須になっていきます。学園長以下諸先生におかれましては、課題の多い条件下で教育事業の推進本頭に頭が下がります。同窓会としても精一杯の支援をしてまいりますので母校の維持発展よろしくお願い申し上げます。

農民教育協会決算書収入にみる平成11年度と16年度の比較

(単位千円)

科 目	平成11年度	平成16年度	増減(△減)
入 学 金	28,090	21,870	△ 6,220
授 業 料	218,205	186,490	△ 31,715
農 場 事 業 収 支	87,694	79,064	△ 8,630
国庫補助(人件費)	94,059	85,576	△ 8,483
国庫補助(事業費)	4,596	410	△ 4,186
茨 城 県 補 助 金	3,150	1,350	△ 1,800
中央農業団体寄付金	48,562	41,637	△ 6,925
財政調整基金繰入		9,500	9,500

# 創立六十周年を迎えて

学園長 井上隆弘

昭和二十年に開校した高等農事講習所を前身とする鯉淵学園は、本年十一月をもって満六十年を迎えます。設立当初、日本農業再建のための農業・農村指導者の養成を目的とし、昭和二十六年に鯉淵学園と改名して以来、時々刻々と変わる社会情勢の変化、農業・農政の流れなどに対応しながら学園の組織、農学科・生活科といった学科構成、就学年数、教科課程・教育内容など多岐にわたって変貌を遂げてまいりました。それらの詳細については、「鯉淵学園五十年史」に述べられておりますので、ここでは、六十年に至るこの十年間を振り返ってみたいと思います。

平成七年に学園は全国で初めての四年制農業・生活専門学校としてスタートを切り、社会ニーズへの対応を図ってまいりました。これにより、農業経営科学科の学生の農業改良普及員への道、生活栄養科学科の学生の管理栄養士への道が確保され、また、卒業生の待遇で「大学四年卒」の学歴区分上の位置づけがなされるなど学生の勉学意欲の増進、入学生の確保などに学園の教育環境は一時的にせよ大きく好転いたしました。

入時代に突入しようとする現在、学生数はここ数年恒常的に定員を割り込み、学園経営を極端に圧迫してきたばかりか、それが在学生へのサービスマス低下、新入生への学費値上げ、入学生の減少という悪循環に陥ってきている傾向にあります。これらを打破するために、「対処療法ではない根本的な学園改革を」と平成十一年から二カ年をかけて学園改革について内部議論を重ね、なんとか現代高校生に強く印象づけられるような学園の特色を打ち出そうと改革の実行に踏み切っております。

その一つが、学園の名称変更であります。平成十七年四月をもって、鯉淵学園の正式名を「鯉淵学園農業栄養専門学校」と改名しました。これは、入学を目指す高校生とその保護者に学園の教育内容が一目で分かるようにという意図からであります。新しい名称は高等学校からは判りやすいとの好評を得ているところでありますが、反面、昭和二十三年以来長い間親しまれてきた「鯉淵学園」の正式名を変更する過程では、同窓生の皆様から強い反対の意見やお叱りも受けております。同窓生の皆様におかれましては、こういった諸々の事情をお含みのうえ、なにとぞご理解をいただきたいと思っております。

二つ目は、教育内容の改善です。鯉淵学園ならではの教育システム改革のため、教育方針として、「食と農を結ぶ食農一貫教育」、「環境保全循環型農業の理論と実践の教育」、「若者新規就農のための研究と教育」、「食と農の国際化に対応した教育」など鯉淵ならではの教育に重点化し、一つ一つの実行に移してまいりました。具体的には、社会と学生のニーズに対応した学科・コースの再編とカリキュラムの見直し、環境保全型・有機農業教育の導入、タイ国でのファームステイを含む国際学生交流、学生・教職員が一体となって取り組む総合研究の実施、学生による授業評価の導入、などの教育改革を実施してきました。

三つ目は、学園の運営改善です。学園の経営は、国の補助金、農業団体等寄付金に負うところが大きかったわけですが、この厳しい社会経済情勢のなかで、補助金・寄付金の額が十年間で三〇%も少なくなりました。なんとか自助努力による経営改善を行うため、農民教育協会、鯉淵学園が一体となって、学生数の確保のための新しい試み、すなわち、オープンキャンパスの実施、学園内情報システム整備とホームページ活用、同窓会との連携強化による学生募集対策などを進めてまいりました。また、教職員の人件費削減を含めたぎりぎりまでの教育コスト・経費節減、食堂の管理体制改善などの学園経営運営改革を次々と実施してきました。

これらの学園改革はどれ一つとってもあらたな経費と人的強化を伴うものであり、その実行は着実ではありましたが、かなりの年数を要することになりました。この間、母校の発展を願う数多くの同窓生の皆様からは、物心両面多大のご理解とご支援を賜りまして心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。

学園を取り巻く環境の変化はさらに過酷で、学園生の勉学の大きな目標であった「農業改良普及員の受験資格」および「管理栄養士の受験資格」が在学中は失われることになり、これが、入学生数の減少に拍車をかけることになりました。これに対しては、農業改良普及員資格に代わる新しい資格の創設や管理栄養士受験資格獲得のための実務経験主事補制度の創設などの対応で乗り切ることを考えておりますが、その効果が学生の勉学意欲に大きく反映することを期待しているところです。

また、学園創立以来堅持してまいりました全寮制についても、最近の若者の気質の変化や、近隣の通学可能な学生からの強い要望を踏まえまして、来年度から希望入寮制にすることにしました。「ヒューマニティを基調とした広い視野」、多数の人々と協力して」という建学からの教育理念を継承するため、学生自治会の結束、協同学習の強化を教育の中に取り込み、希望入寮制のデメリットを補い、学園の文化と伝統を維持発展させてまいりたいと思っております。

このように、学園の辿った十年間を顧みますと、悲喜こもごもの十年間のように思いますが、学園長就任三年目の私にとつての大きな喜びは、学生達が学園長舎宅を訪れてくれ、社会と将来を語り合うこと、同窓生、とくに若い同窓生達が、卒業後社会で大きな評価を受けていることを聞くことです。それよりもっと大きな喜びは、私たち教職員の長年の夢であった「直売所の開設」であります。この直売所の意義については、本誌別項に記載

いたしますが、学園創立六十周年を機に、私たちがお願いを同窓会が全面的に引き受けていただき、ほぼ一〇〇%同窓会の資金で建設、本年九月十九日に仮オープン、十一月十二日は皆様とともに開店記念式を祝うことができるようになりました。高橋同窓会長はじめ同窓会会員の皆様、本当にありがとうございます。この

## 鯉淵学園の教育・経営改革に向けて —常務理事就任ご挨拶—

常務理事・事務局長 狩谷 昭男

前任の木村春夫氏の後任として、本年四月一日に、(財)農民教育協会の常務理事・事務局長に就任いたしました狩谷でございます。誠心誠意努めたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

鯉淵学園同窓会の皆様には、九月一日にプレオープンの「農産物直売所」建設に対する資金援助を始めとして、各般にわたりご支援を賜っており感謝に堪えません。今後とも鯉淵学園の安定的な発展のため、ご指導・ご支援をお願い申し上げます。

### 鯉淵学園との出会い

今振り返ってみますと、鯉淵学園と私との縁は、少なからぬものがあるように感じております。私は、学生時代(昭和三十一年)を茨城県で過ごし、千波湖や那珂川で魚釣りが楽しめ、霞ヶ浦の風物詩である「帆曳き

直売所の開設を節目とし、単に少子化のみを対象にするだけでなく、広く社会情勢の変化に目を配り、日本農業・食生活の発展のため、教職員一同、一歩一歩努力を積み重ねていく所存であります。同窓生の皆様におかれましては、引き続きご理解、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

舟」を目の辺りにすることも出来た、故き良き時代でした。その当時から、鯉淵学園は、農業・生活関係の改良普及員等農業・農村の指導者養成、優れた農業人の育成を図る学園であり、それが内原町鯉淵にあることは、よく承知しております。

時が移り、職務上から鯉淵学園と直接接する時代がありました。農林水産省の普及教育課に在籍していた、昭和五十四年八月～五十九年七月(課長補佐)と平成四年四月～七年一月(課長)の八年間に亘る頃です。当時、学園と隣接する農林水産省の農業技術研修館へ講義等で出かける機会がよくありました。そうした機会も捉えつつ、学園にも立ち寄りさせていただきました。思い出すままに、その時代の印象の一端を述べてみますと、石焼きパンの製造、煎茶の製造など鯉淵学園ならではの特徴がみられた時代であったような気がします。もう一つは、課長時代に、前理事長の二瓶 博さんが経営

建直しのため、大改革に情熱を込め奔走されていた姿が浮かびます。まさに、二瓶さんは学園の「中興の祖」だと思います。

### 学園の当面する課題

話を、現在に戻しましょう。伝統のある校名「鯉淵学園」は、本年四月一日から「鯉淵学園農業栄養専門学校」に名称変更しました。「名は体を表す」という視点、からの変更だったとも言えます。ただ残念ですが、現在、新名称となった学園を巡る教育・経営環境は、急激に変化してきており、学園の経営が極めて厳しい状況に直面し、大改革を迫られていることです。特に、財政面からみた経営危機の背景には、大きく二つの要因があります。

一つは、ここ数年の学園への入学者は減少傾向にあり、定員百二十人に対して概ね八十人台に止まっています。また、入学後において退学者が相当みられます。これらが相まって、学園の財政基盤悪化の大きな要因となっております。

定員割れの背景には、本格的な少子高齢化時代を迎えたこと、農業・農政を巡る厳しい環境があることは否定できません。なお、具体的には「改良普及員資格試験制度」が、平成十七年度から従来の改良普及員と専門技術員を一本化した「普及指導員資格試験制度」(国家試験)に変更となり、学園在学中の受験資格がなくなったこと等も影響があると申せましょう。

二つは、これまで学園経営に対し、農林水産省、農業団体等の外部から学園事業の目的、趣旨に深いご理解、賛同をいただき、多大な財政的助成、ご支援をい

ただいてきました。しかし、外部環境は厳しく、近年その助成額は減少傾向にありましたが、平成十七年度に続いて、十八年度も一段と減額の方向となつて参りました。すなわち、全国農業団体からの助成額は、平成十七年度は従来の五%よりも多い一〇%の削減となりました。また、予算収入に大きな割合を占めてきた国からの学園に対する人件費助成額は、平成十八年度においては一五%削減される方向で、政府予算案が検討されております。

### 教育・経営改革の断行

前述の状況を踏まえて、(財)農民教育協会では、教育・経営改革の断行は不可欠と考えております。このため、十月五日に開催が予定されている本年度の第二回評議員会、理事会に「鯉淵学園における経営改革の基本方向について(骨子案)——鯉淵学園経営刷新三カ年計画(仮称)——」を諮りし、承認が得られれば平成十八年から改革をスタートさせる予定です。改革の内容は、①魅力ある学園への教育改革と②徹底した財政改革の二本柱です。その具体的な方向付けを平成十七年度末までに、関係者の英知を結集して構築したいと考えています。

この経営刷新計画(案)については、去る八月三十日に開催された鯉淵学園同窓会役員(三役)と農民教育協会常勤役員との懇談会においても、これらに関する概案を説明し、意見交換をさせていただきました。その際、農民教育協会から次の四点について、同窓会へ協力・支援をお願いしたことを付記しておきます。

① 同窓会都道府県支部の強化等によ

つて、入学生の増加に対する協力・支援。

② 「フリーター・ニート対策事業」(十八年度新規)の実施に伴い、宿泊施設として同窓会館を活用することについての配慮。

③ 農産物直売所の円滑な運営についても、引き続き支援・協力。

④ 「経営刷新三カ年計画(仮称)」に基づく改革推進に際しては、全面的な協力・支援。

## 結 び に

七月のある日、農水省女性・就農課の田中健一課長補佐が来園され、井上学園長の案内で学内を見学した際の率直な感想は、一口で言うと「農業、栄養の勉強をするには、学理とともに豊かな実践の場をもっており、バランスのとれたいい学校だな」と、改めて思ったことです。例えば、ビオトープの調査研究、有機農業の実践、農産物直売所でのマーケティングの学習等々、時代の流れを先取りした教育・実践の場を持っていることも、学園の大きな財産であり、強みであると感じた次第です。

以上述べましたように、(財)農民教育協会、鯉淵学園農業栄養専門学校は、今、大きな転換期を迎えておりますが、魅力のある学園に向けての芽生えは、随所にみられます。私も役員一同は、一丸となり、新しい学園づくりに取り組む必要があることは言うまでもありません。

併せて、全国でご活躍の同窓会の皆様におかれましては、最近における学園を巡る状況をご理解頂き、母校に対する限りない情熱と力強いご協力・ご支援を、

旧に倍してお寄せいただくことを重ねてお願い申し上げます。常務理事就任のご挨拶とさせていただきます。

## 鯉淵学園の近況

農業の世界に、今ほど青年の参加が望まれている時代はないのですが、少子化によって高等教育機関の間で入学者の奪い合いが熾烈で、食と農業の世界を志向する高校生が減っています。高校の先生たちも、大学への誘導には熱心ですが、就農や地域農業振興につながる青年の実務育成には、なかなか目を向けてくれません。

こうした情勢の中、鯉淵学園は「青年たちの目線」と「時代の要請」の両面をにらみながら、新機軸をうち立てる努力をしています。

### 学校名の変更

その一つが学校名の変更です。四月一日から正式名称を「鯉淵学園農業栄養専門学校」と改めましたのは、学校名だけで教育内容が分からないと、高校生も先生たちも学校案内書の封筒を開けて見にくれないからです。学校の通称は、今まで通り「鯉淵学園」を続けます。

### 農産物直売所の開設

鯉淵学園の「顔」を一つ増やす試みとして、農産物直売所を九月十九日に開店

## 教務部長 涌井義郎

しました。このことは別記しますが、鯉淵学園の教育の特長を、より具体的に、近隣市民の目に触れる形で示そうというものです。

### カリキュラム改善

平成七年に四年制に改める際、農業科を三コースに増やしましたが、近年の学生たちは「経営・流通コース」をあまり希望しなくなってきたことと、農業科在籍学生数が減少したままで三コース維持が難しくなり、平成六年以前のように「作物・園芸コース」と「畜産・加工コース」の二コースに戻すことにしました。学生の進路希望は様々です。非農家出身者が半数に近い現状もあり、単に2コースとするだけでなく、出口対策として五専攻制を設けます。「農業経営」「有機農業」「農産物流通」「海外技術協力」「農産食品」の五専攻とし、平成十八年度入学生からこのカリキュラムを用います。生活科も、食農一貫教育と合わせ、管理栄養士育成の充実に向けたカリキュラム改正を同様に行います。

### 実務経験栄養士

管理栄養士の受験資格は、現在の四年生から「一年間の実務経験」が必要となります。今まで以上に現役合格者を増やすために、学生食堂で一年間働いてもらう制度を作りました。来年度は六名を募そうと、四年生に希望を募っています。

### 高度専門士の称号と大学院入学資格

四年制の専門学校は、医療の分野などでは増えてきています。昨年から、文部科学省で四年制専門学校を差別化する検討を行ってきました。二年制以上の専門学校卒業者に「専門士」の称号が与えられますが、これと区別して四年制専門学校卒業者に「高度専門士」の称号を与え、ストレートに大学院に入学できる特典を与えようというものです。

鯉淵学園の学生にも適用されるでしょう。確定しましたら、改めて皆さんにお知らせします。

### 研修事業の充実

学生数をなかなか増やせない中、農水省は平成十八年度からの新事業として「ニート・フリーター研修」を提案してきました。半年間の合宿研修プランですが、本科学生の教育に影響を与えないようになら、新事業を行わなければなりません。国際交流事業の展開と併せて、研修事業の實質的拡大が重要な課題となってきました。ほとんどが「技術研修」であることから、技術系(特に作物園芸)教職員の手不足の問題が実に頭の痛いところではあります。

## 新資格の試行試験

改良普及資格に代わる新資格について、一昨年からは農水省ほか関係各方面に強力に運動してきました。農水省事業として「農業技術能力評価制度」の検討が全国農業会議所の主催で行われています。鯉淵学園の学生には同制度試案の一級が対象となる見込みで、「今年度中の試行試験実施」がようやく決まろうとしています。実施についてはまだ気を抜けない状況で、学園は引き続きけん引役を担う

こととなります。

こうした中、鯉淵学園の学生は今も、曲がりなりにも自治的共同生活を維持していますし、訪問者には学生の多くが挨拶を欠かさないことや、就職した福祉施設（栄養士として）や農業法人などでも実力を高く評価してもらっています。学園運営上の困難は多いのですが、学生の姿を見ていると、なんとしてもこの学園を存続させ発展させなければならぬと決意を固めています。

## 農産物直売所「農の詩（うた）」開設

農産物直売所準備委員会 責任者 涌井義郎

六十周年記念として、同窓生の皆さんから寄せていただいたご寄付によって、念願がかないます。深く感謝いたします。いよいよ農産物直売所を九月十九日に開店しました。この会報が届けられる頃には、すでにお客さんでにぎわっていることでしょう。

店舗の販売スペースは四十坪ほどあります。店舗の用材の半分は学園構内から切り出した杉を使っています。購買部と接続して、農産物直売所と従来からの購買部を合体させた経営となります。店の愛称は学生と職員に募集し、一学生から提案のあった「農の詩（うた）」を選びました。

販売物の考え方  
販売物は、(一) 学園農産物と加工品、

(二) 同窓生の皆さんの特産物、(三) 地域の農業生産物、(四) 仕入れ商品(加工食品、文具など)の四種類。「学園直売所ならではの」コンセプトとして、販売物を「環境保全型農産物」と「安心加工食品」に統一しました。学園生産物もこの方向で一層の努力をしますし、地域農家には「特別栽培農産物」レベル以上の条件を付けて参加を募りました。同窓生の方々の生産物についても、同じ考え方で参加してもらいます。

地域からは、約二十名の参加がありました。米と野菜各種のほか、雑穀、ゴマ、キノコ類、パン、牛乳、漬け物、卵、だんご、味噌、ジャム、花壇苗など多彩です。有機農産物と特栽培農産物がメインです。

同窓生からの生産物参加は、野菜、お

茶、加工食品など、少しずつ手を挙げる方がおられます。多くの特産物が集まることを期待しています。これから参加を考えていただける方は、電話でお知らせください。

### 教育施設

この直売所は、なにより学生の教育用施設として十分に活用していきます。年間を通じて十分活用してきます。年間を通じた農業科の販売実習の場とし、買い物に来るお客さんと接しながら、農産物の売り買いについて実践的に学びます。また、地域農家や全国の同窓生から良質の生産物をたくさん集めることで、食品教材のモデル展示場にもなります。生活科学生にも役立つはず。ゆくゆくは、学生食堂の食材調達の間としても利用して欲しいと思っています。

一方、学園の考え方・直売所のコンセプトを「よし」として来てくれるお客さんや農家の人たちに、ここで売れる農産物を使った料理講習会や、健康教室、環境保全型農業の研修会など、市民講座的な施設としての活用も、将来の課題となるでしょう。

### 自立経営

これまでの購買部は学生のための福利厚生施設でした。したがって人件費一部持ち出しの万年赤字

経営でした。しかし、これからはそうは言っていられません。

農産物直売所は、購買部機能を持ったまま独立採算を目指します。当面は、赤字を出さない経営として売り上げ六千万円が目標です。また、これまで市場出荷で低い単価に我慢させられていた野菜類を正単価を直売できれば、農場の収支もある程度まで改善されるでしょう。学生に「学園の野菜は安い(＝単価が低い)」と誤解されていた問題の解消にもなるのです。

### 同窓生の皆さんのアンテナショップ

全国の同窓生の皆さんの生産物を集めて売ること、個性的なアンテナショップができると思っています。他に、こんな店はないのでしょうか。来年度以降、例えば「秋田県農産物展」

とか、「沖縄フェア」などのイベントも企画していきたいと思っています。今後、同窓生の皆さんのお力を借りることが増えると思います。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

### 同窓会大会日に

#### オープン記念式

十一月十二日(土)に同窓会大会が行われます。この日に、直売所開店の記念式を計画しています。多くの同窓生の方々の参加を期待しています。どうぞ、万障繰り合わせてお出かけください。(お礼方々、経過報告として)



## 第27回同窓会定期大会についてのご案内

拝啓 残暑厳しい折から、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃は、同窓会活動につきまして格別のご協力、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先と同窓会館において開催された常任委員・監事合同会議において、第27回同窓会定期大会を11月12日(土)に下記要領により、開催することを決定いたしましたのでご案内申し上げます。

敬具

### 記

#### 1. 第27回同窓会定期大会

■日時 平成17年11月12日(土) 13:00~16:00

■場所 鯉淵学園農業栄養専門学校 3号教室棟

#### 2. 懇親会

①会場：総合老人保健センター ひぬま荘

②住所：茨城県東茨城郡茨城町大字石崎2837-1

TEL029-293-7355 FAX029-293-7358

③開催時間：17:00~19:00

#### 3. 宿 泊

①宿泊先：上記 ひぬま荘

②宿泊料：6,000円(1泊2食付)

なお、大会後の懇親会において、出席代議員と支部活動等の意見、情報交換、また学園の教職員の方々を交え懇談をはかる。以上

## 11月5日(土)、6日(日)に第60回学園祭が開催されます

学園祭実行委員長 前園 慧 (生活栄養科学科 2年 鹿児島県出身)

私は、第60回鯉淵学園学園祭の実行委員長をしております。鹿児島県出身の前園と申します。題目の日程を見て「おや？」と思った方が多いと思います。従来、学園祭は文化の日(11月3日)とその前日または、後日に行われてきました。しかしながら「平日に開催すると一般の方の来場が少ない。」、「遠方から同窓生が集合しづらい。」等の意見があり、今年度より11月の第1土曜日、日曜日に開催することになりました。

今年は第60回の節目の大会ですので、昨年以上に学園祭実行委員中心に学生が一丸となって望みたいと思います。キャンパス全域を利用して、一般の来場者の方々が“来て見てさわって”日頃私たちの鯉淵学園がどんな事をやっているのかをわかっていたいで“来て良かった”っと思えるような学園祭を創りあげたいと思います。

60回記念企画として、来場のみなさんにも審査して頂く「研究室的展示コンテスト」、「学内農産物を利用したレシピコンテスト」を行います。「研究室的展示コンテスト」

は、各研究室がどんな活動・研究をしているのかをポスター等の展示で皆さんにわかって頂く企画です。コアタイムには、各展示について研究室所属の学生がプレゼンテーションをします。展示とプレゼンテーション両方を総合して審査してみてください。

「学内農産物を利用したレシピコンテスト」は、学内でとれた農産物を自由に調理して、食味(おいしさ)、調理方法の工夫、栄養の各方面から審査して頂きます。試食は限りがあるかとは思いますが、審査に参加してみてください。

その他、昨年同様に全国農産物展示即売会やステージ企画、模擬店も行います。模擬店では、毎年好評の“沖縄そば”も例年通り見られると思います。

まだ、実行委員会も動き出したばかりですので、詳細は学園HP (<http://www.koibuchi.ac.jp>)で随時お知らせしますのでご覧下さい。

必ず成功させたいと思います。先輩方も是非ご来場下さい。

「農山村の魅力発信中のバツタリー村」  
等を研究視察

第十四回目の農村社会研究会を二十五名の参加を得て、六月十六日・十七日の二日間にわたって岩手県の山形村と葛巻村で開催した。JR・IGR鉄道のいわて沼宮内駅に集合して全員貸切バスで、岩手県の北部に位置する山形村荷軽部で農山村の魅力を発信し続け、今年で開村二十周年を迎える「バツタリー村」（沢水で杵を動かして脱穀や製粉をする道具から命名した村）へ出発した。平庭高原の峠を越えて山形村に入ったら、濃霧に合い気温も下がり車中の中から寒いと云う声があったので、岩淵君から初夏の気温上昇期にオホツクの高気圧の勢力下に入り、冷涼な偏東風（本県ではヤマセーと呼んでいる）で作物の育ちが悪く農家を苦しめていたが、今はこの冷涼な気候を活用してホーレン草の一

大産地になっていく旨説明（予期もしない体験をし自然に逆らわない農業の大切さを学ぶ？）。  
バツタリー村の開村の先頭に立った木藤古徳一郎村長さん・妻のミツ助役さんの出迎を受け、今日はヤマセーで寒いので交流館（旧高舎を改造）に炭火で暖を取って下さいと案内され、開村の経緯・活動の内容説明を聞き、濃霧の中の施設見学をした。主な活動は、バ



ツタリーの復元を始め、廃屋を補修した集会場・豆腐工房・生活民具工房・体験牧場など手づくりで各種施設を整備、児童生徒・大学生・都市住民が各地から農山村体験の受入れ、又、民芸品の製造販売、郷土食や雑穀の産地直送で交流ネットワークを広げる等して農山村の魅力を発信し続けている。この業績が評価され、村長の木藤古徳一郎さんが、平成十五年に岩手日報社から文化賞（社会部門）を受賞されています。

生れ育った自然を愛し、自然と共に生きる、便利さや効率性は二の次、先人が培った伝統文化を継承し、その価値を広く発信することこそ農山村が生き残れる道と解く村長の話しに参加者は感動した視察研究であった。

帰路は地元の山ぶどうを使ってワインを作っている葛巻ワイン工場を見学、記念に参加者が入ったラベルを貼った赤ワインを配布した。そして東北一の酪農郷・葛巻町にある日本一の公共牧場である「くずまき高原牧場」見学し展望台から見る風景は、高原の特長でもある起伏を利用した牧野が広がり、白色の牧柵が緑の牧草に映えて素晴らしく心が洗われる思いであった。動物の排泄物を利用したバイオガスプラントを外観し、地元の間伐材で作った体験ドームを見学して一日目の視察研究は終了。二日目は上外川高原牧場にある十二基の大規模風力発電施設を見学に出掛けたが、霧が濃くて良く見えなかったのが残念。しかしこの牧場は多くの事業を展開しており、エネルギーまでもかなう地域完全循環型食料生産基地をめざしていることを知り、有意義な農山村社会研究であった。

（文責） 加藤謙次

出席者

- 十四期 美馬信子・武藤恒美・加藤謙次・遠藤弘司・浅田昌男
- 益子駿一・板垣常雄・大竹勝次・西潟範子・福良充雄
- 十五期 深澤慶吉・小嶋宏・岩淵斉
- 十六期 前原敬・竹村敬子
- 十八期 菊池雄基
- 十九期 竹村洋一・伊藤典子・木藤古徳一郎・宮田泰

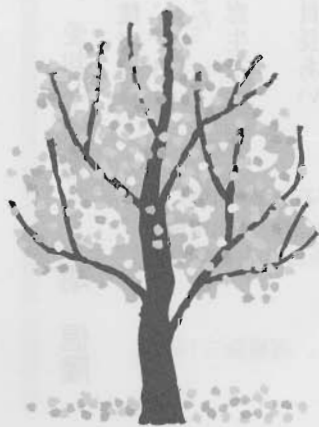
鯉淵学園同窓会第四代会長  
和田 文雄（三期・東京）氏  
「日本の詩人」として  
紹介される



鯉淵学園同窓会第四代会長  
和田文雄氏

詩の月刊誌「詩と思想」（発行・土曜美術社）本年八月号の巻頭、一頁から四頁にわたって堀口精一郎氏の紹介記事が掲載されている。既刊の詩集は「恋歌」「花鎮め」「女神」「無情有情」「うこの沙汰」「村」「失われたのちのことは」「毛野けぬ」「和田文雄詩集」の九冊になるという。

和田氏は、昭和四十四年から平成元年までの二十年にわたって本同窓会の会長を務められ、喜寿を迎えた今日でも元気で多方面にご活躍中のご様子です。



# 支部・同期の動向

## 静岡県支部



### 写真紹介

前列左より 松永(3)・平石(14)・高橋(21)  
加藤(3)・鈴木(5)  
中列左より 一人おいて・田代(24)・新関(23)  
原崎(14)  
後列左より 猿田(14)・鈴木(22)・羽柴(51)  
梶浦(55)・神尾(51)・今村(4)  
上 段 村田(11)

八月二十八日、静岡駅前「ブケ東海」で平成十七年度鯉淵学園静岡支部大会が開かれました。二年ぶりの大会となりましたが、三期生から五十五期生の十六名が参加しました。

前平石支部長(十四期)からバトンを受けた高橋新支部長(二十一期)を初め役員・事務局員の紹介の後、鯉淵学園の近況、同窓会本部、東海・中部ブロック報告、六十周年記念事業「農産物直売所」の支援依頼やら、改名された、新生「鯉淵学園農業栄養専門学校」の紹介ビデオ視聴など、久しぶりの学園情報を楽しみました。

自己紹介に入っても、ユニークな活動紹介あり、思いつきありとあつという間に三時間がすぎました。親、子、孫の三世代が一同に会するのも、県人会ならではの楽しみでしょうか。

最後に、今村先輩(四期)のハモニカ伴奏で鯉淵学園寮歌を四番まで大きな声で歌いました。このときばかりは、みんな学園生に戻ったようでした。「やっぱいい歌だね」、「来年も会おうな」と声を掛け合い散会となりました。今年創立六十周年という記念の年です。悠久の時を超え、学園生の絆で結ばれた不思議に懐かしく楽しいひと時でした。

(田代みよ子二十一期)

## 東海地区大会

実行委員長 愛知二十一期

久胡 信隆

六月十八日(土)十九日(日)あいち健康の森(愛知県東浦町)にて静岡、岐阜、三重、愛知の東海四県による東海地区大会を開催しました。

高橋隆三同窓会長のご出席のもと、同窓生二十八名の参加にて開会しました。

奥田勝巳氏(七期)司会のもと実行委員長あいさつ、高橋同窓会長の情勢報告、岩田勇氏(二期)の乾杯の音頭で懇談会が始まりました。

参加者全員の自己紹介を前半、後半に分けて行い、楽しいひと時を過ごしました。最後の締めは岐阜支部長の高津政臣氏(十二期)の音頭で懇談会をお開きになりました。

部屋に戻り一階フロアーでは囲碁大会が開催され、九〇八号室の幹事室では学園のビデオ鑑賞と酒盛りが始まりました。

翌日は、ゆつくりと朝食を取り各自流れ解散と致しました。

次回は、岐阜県での大会を予定し、会員一同楽しみにしています。



### 写真紹介

後列左より 竹田邦雄(19期)、猿田有造(14期)、原崎充弘(14期)、神谷則子(旧姓石川26期)、平石五雄(14期)、土岐八雄子(旧姓片田24期)、高橋喜久夫(21期)、水上雅雄(選19期)、花井巳代治(5期)、山中種郎(7期)、神尾尚宏(51期)、渥美照男(3期)、木全勝則(32期)、岩田勇(2期)、浜島 光(39期)、渡辺悦次郎(3期)、長坂幸治(28期)、宮島美智男(3期)  
中列左より 仲里小枝(旧姓入波平26期)、長谷千歳(1期)  
前列左より 久胡信隆(21期)、小川末吉(3期)、高津政臣(12期)、大瀧昭吾(旧姓米沢17期)、高橋隆三(同窓会長)、柄沢明宏(27期)、奥田勝巳(7期)、宇田義信(20期)



## 第十期生会 東京にて開催

平成十六年十月二十二日・二十三日、関東地区の運営・開催となりました。東京池之端「水月ホテル」にて、第七回十期生会が盛大に開催されました。十期生の年齢は、今年で七十歳を迎え「古希」の年であり、それを祝っての同期生会となりました。

七回目となる十期生会は、これまで全国各ブロックの持ち回りで開催されてきましたが、今回は振り出しに戻り



の司会で進められ、卒業時百十四名いた同期の中で物故者十四名への黙祷、実行委員長、市野沢 弘氏（茨城県）の挨拶、来賓井上学園長より祝辞並びに学園の近況報告、高橋同窓会長より同窓会活動、特に創立六十周年記念事業である「農産物直売所の建設」についての詳細な報告、そして参加者による近況報告がなされ、寮歌斉唱、記念撮影、懇親会へと移り子自慢、孫自慢、愚痴の出し合いから時効となった若かりし日の失敗談など楽しいひと時でありました。また、既に一線を退いて余生を楽しく送っている人、経験を活かして第二の職場で働く人、今現在も第一線で頑張っている人など学生当時の強者の延長感を強く感じながら、この五十年間を振り返っての話も尽きず、秋の夜長も短く感じられました。

次回の十期生会は、平成十七年度に関西で開催することを約束し、最後に参加者全員による「鯉淵学園創立六十周年記念事業」への募金を高橋会長へ手渡し解散しました。

### 写真紹介

前列左より 北岸・日高・日高孫・高橋・浜本・高橋会長・井上学園長・市野沢・西村・篠原・小西・原田  
中列左より 日高夫人・梅原・梅原・福沢・水澤・鈴木・三須・二瓶・平原・須田  
後列左より 寒川・加藤・荒木・駒井夫人・駒井・奥野・井上・後谷・佐藤・宮崎・山口・唐橋

## 宮城県支部総会

平成十七年七月三十日（土）仙台市内の勾当台会館において、井上隆弘学園長、山本英治教授を来賓に招き、佐藤堯名誉教授をはじめ宮城県支部十八名が参加して支部総会が開催された。

支部総会は、山家支部長、井上学園長の挨拶ではじまり、その後山本教授から学園ならびに同窓会の近況が報告された。

宮城県支部として以下の事項が協議され、了承された。

- 支部体制は、山家支部長は留任し副支部長三名、事務局長一名を新たに任命する。
- 農産物直売所（六十周年記念事業）の寄付推進。
- 学生募集への協力。



懇親会では、井上学園長夫人にも参加をいただき、参加者の近況が報告され、卒業生の活躍している状況をみんなで確認して、盛会のうち、支部総会は終了し、次回の開催を十八年九月頃石巻方面で開催する予定となった。

## 埼玉県支部

鯉淵学園同窓会埼玉支部では、平成十六年十二月五日に熊谷市平安閣において同窓会を開催しました。当日は来賓として、十七期生の同窓会副会長兼事務局長であります住吉氏にご臨席を頂くとともに、県内の卒業生も十八名出席し、懇親を深めることができました。また次期埼玉支部長として、二十四期生の清川完司氏が選出され、次回の同窓会を4年後に開催する予定となりました。



## 第十三回五期生会（卒後五十五年）開催

去る四月二十一・二十二の両日、全国から二十六名が集い、鯉淵学園と友部シティホテルを会場にして開催された。第一日は同窓会館で、物故者十六名への黙とうに始まり、幹事よりの挨拶と経過報告、参会者の近況報告について本題の今後の同期生会の持ち方などについて話し合った。

終って、会館前庭の卒後三十周年記念樹「高野槇」の成長に目を見張り、学園内を散策しながら旧講堂東側の卒業記念樹「けや木並木」の堂々たる姿に感慨一しおでカメラに納めることしきり。

次いで懇親会場の友部グリーンビュウに移り開宴。乾杯の音頭もどかく二年振りの再会に花が咲き、酔う程に昼間の学園からの余韻がさらに膨らんで、卒後五十五年の時空を超えて青春に還った一夕であった。

第二日はホテルのマイクロボスで岩間街道沿いの学園に別れを告げて一路水戸へ、千波湖を回って偕楽園に入った。記憶に残る戦後の荒廃した園はすっかり一新され、見事なまでに整備された梅園と緑りの施設、そして千波湖の眺めは名園と呼ぶに相応しい景観であった。さらに茨城県立美術館へ、折しも県出身の洲之内徹画伯の絵画コレクション特別展他を見学、施設の立破さと併せて中々に見応えあり。

終って近くのレストランで昼食。杯を酌み交して名残りは尽きず、水戸駅では再会を約して熱い手を振り、西に東に別

れを惜んだ。五期会は稀にみる団結と自負している。これはその時々々の幹事諸君が献身的にお世話をしてくれたことによる。また、卒後五十年の節目には宮本良隆君を中心に会報「常陸野」を編集発行し、つづいて「ひこば之集」なる落穂記まで配布して心のつながりをつけてくれたこと等によるものと思う。特に記して感謝したい。

五月晴れの日に

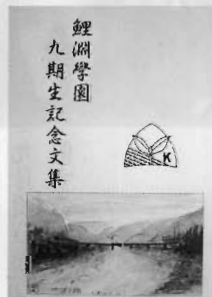
木村 良一 記



### 写真紹介

前列左より 川上、木村、砂田、阪衛、同夫人、加藤、同夫人、土肥  
 中列左より 川野、宮本、花井、森井泉、若林、野口、阿川、服部  
 後列左より 黒田、植田、小川、黒石、熊谷、鈴木、門宮、武井、中村、小林

## 「九期生記念文集」発行



「九期生記念文集」  
(A5版92頁)

昨年六月の九期生会卒業五十周年記念で決定しました「記念文集」の発刊は、千葉県船橋市在住の山崎 修氏の手によって、本年八月に発刊されました。

## 沖縄で活躍中!

「常夏の島」沖縄県には、五カ所の農業改良普及センターがあります。その内二カ所の普及センターで、卒業生が所長として活躍されています。平成十七年三月までは、二十期の宮平エミさん(退職)が宮古農業改良普及センター所長として活躍されました。

現在ご活躍中の卒業生は、南部農業改良普及センターで二十四期の喜久山守良氏、中部農業改良普及センターで二十七期の正木虎夫氏のお二人です。



中部農業改良普及センター  
27期 正木 虎夫氏



南部農業改良普及センター  
24期 喜久山守良氏

# 会費及び寄付金納入者名簿【報告】

確認と領収の報告です。ご不審の点はご連絡下さい。  
○数字は卒期、括弧数字は通信過程卒期です。

## 年度会費

平成16年12月1日～

平成17年8月31日

○十一～十七年度分

【神奈川】

④ 広沢 和夫

○十五～十六年度分

【京都】

④⑧ 梅原 由季子  
通2 木村 信二

【岡山】

⑤ 野口 良男

【広島】

⑥ 吉清 逸二

○十六年度分

【沖繩】

②② 金城 正春  
③⑨ 東長田 隆

○十六～十七年度分

【北海道】

④ 佐藤 哲彦

①⑦ 塚本 良浩

①⑧ 長坂 悌三

通2 菊池 昭治

通4 加納 豊造

【岩手】

通5 花田 弥作

⑨ 熊谷 嘉之助

⑭ 芳賀 正美

⑲ 及川 公美

【宮城】

⑤ 熊谷 俊

④⑩ 佐々木 登守賢

通3 板坂 登

通5 佐々木 昭

【秋田】

実9 六平 仁

【山形】

③⑩ 加藤 忠

【福島】

②④ 高木 敏光

③② 林出 豊信

【茨城】

⑧ 篠崎 芳三

⑧ 向井 喜久男

⑪ 柴重 重男

⑪ 羽生 重男

⑲ 野村 重男

⑲ 鈴木 利通

選23 齋藤 博

【群馬】

⑤ 田村 武

③② 阿久沢 公一

【埼玉】

② 新井 徳治

⑲ 鈴木 市郎

⑲ 植木 清治

通5 菅谷 初夫

【千葉】

⑩ 西村 璋三

⑫ 服部 政明

⑬ 高野 美奈子

【東京】

⑤ 宮本 良隆

【神奈川】

② 宮川 英一

⑬ 真弓 千枝

【新潟】

⑩ 小林 敏雄

⑲ 安藤 くみ子

⑲ 吉原 ふじ子

⑳ 石塚 一久

【富山】

⑨ 株田 秋一

⑯ 深山 一雄

⑳ 寺島 尚登

【山梨】

⑲ 植松 延行

【長野】

⑨ 倉田 金幸

⑨ 上澤 徳雄

【愛知】

⑨ 内山 澄治

⑲ 仲里 小枝

【京都】

通1 森茂

【大阪】

⑦ 相川 信三

【兵庫】

⑩ 奥田 和夫

⑩ 岡本 昭治

⑩ 岡本 多恵子

⑬ 近本 昌博

【広島】

⑩ 立上 清

通2 上野 一義

【山口】

⑮ 三好 俱雄

⑲ 神田 登

【長崎】

通3 森繁 昭

通5 吉田 榮寿

【大分】

⑲ 佐藤 つね子

【宮崎】

⑮ 本部 勝利

④⑧ 鹿兒島 康照

【愛知】

⑤ 塚田 益夫

【島根】

⑲ 安藤 知子

○十六～十九年度分

【長野】

⑤ 山口 大樹

通5 谷原 丈夫

【宮城】

④⑩ 佐々木 登守賢

【茨城】

⑲ 飛田 元雄

⑲ 寺田 卓史

【東京】

④ 佐野 信次

【新潟】

③⑧ 江口 豊

③⑨ 江口 康子

【福井】

⑤⑧ 尾崎 大輔

【愛知】

⑲ 久胡 信隆

【大阪】

⑨ 山下 重治

【岡山】

⑤⑧ 坪井 史好

【北海道】

①⑦ 谷越 耕三

【岩手】

通1 工藤 義一

【宮城】

通4 中鉢 英昭

【秋田】

④ 桑名 健一

【山形】

⑯ 保科 周三

【茨城】

③④ 高野 恭明

③⑦ 日向寺 敦

⑤⑧ 和田 安代

⑤⑧ 藤田 常貞

選15 菊地 貞三

通2 山崎 昭二

【栃木】

⑲ 九石 裕

【埼玉】

⑦ 橋長 誠

⑤⑧ 吉田 孝敬

【神奈川】

⑭ 汐満 一虎

【富山】

⑮ 池田 啓治

【長野】

⑧ 小平 伸

【静岡】

③② 鈴木 巖

○十七～十八年度分

【北海道】

①⑦ 谷越 耕三

【岩手】

通1 工藤 義一

【宮城】

通4 中鉢 英昭

【秋田】

④ 桑名 健一

【山形】

⑯ 保科 周三

【茨城】

③④ 高野 恭明

③⑦ 日向寺 敦

⑤⑧ 和田 安代

⑤⑧ 藤田 常貞

選15 菊地 貞三

通2 山崎 昭二

【栃木】

⑲ 九石 裕

【埼玉】

⑦ 橋長 誠

⑤⑧ 吉田 孝敬

【神奈川】

⑭ 汐満 一虎

【富山】

⑮ 池田 啓治

【長野】

⑧ 小平 伸

【静岡】

③② 鈴木 巖

【大阪】

② 北島 隆



⑨【長野】 ⑤【山梨】 ①⑦⑨⑤⑤【東京】 ②④①⑤①②①①⑨【千葉】 ③③③②④②④⑨⑨⑨【埼玉】 ⑤⑥③④③③②⑨①⑦①⑤⑥①【群馬】  
 上澤 徳雄 小林 正巳 住吉 達男 田中 貞雄 宮本 良隆 中村 善一 加藤 成一 西沢 弘毅 松井 周隆 長谷川 周弘 山崎 修 荻野 としみ 大場 保孝 鈴木 市郎 福島 秀男 清川 完司 渡澤 彦彦 千田 保生 島崎 光博 【埼玉】 高野 寛生 女屋 啓子 女屋 篤子 蜂須賀 まゆみ 蜂須賀 信也 小林 弘弘 高橋 宏明 橋本 実二 荻野 栄二

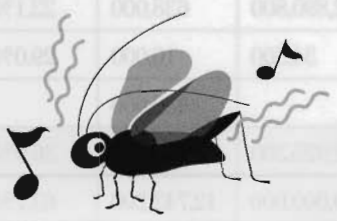
②⑩①⑥①④①①⑨⑨⑦【富山】 ④⑦④⑥③⑨③⑤③④②②⑨⑦⑦⑦【新潟】 ②③①①⑨⑨【静岡】 ⑤④③③③②⑧②⑦②⑥②⑤②①①⑨①⑨⑨⑨  
 嶋谷 憲一 深山 栄一 助田 純一郎 藤村 和夫 長田 秋一 株田 正治 黒崎 正治 富山 友美 佐藤 宏二 江口 康子 土屋 誠一 石塚 久一 角田 優子 大地 重男 寺尾 政勝 小泉 恒 新関 八千代 村田 和彦 内山 澄治 【静岡】 中沢 拓和 樋口 美穂子 橋詰 謙吾 中沢 成一 南雲 良一 安藤 義子 小池 平泉 下島 公旦 林弘 健夫 滝沢 秀夫 翠川 金幸 倉田 雄二

⑦②【大阪】 ②⑥②④②①①②⑨⑦⑦【京都】 ②③③②②【三重】 ②①⑨⑨⑨③③③【愛知】 ①②⑨⑨【岐阜】 ③⑨③①①⑤【福井】 ⑤⑤【石川】 ②④②③②①②①  
 相川 信三 北島 隆二 通木 信二 安井 利幸 岡井 明美 岡本 嘉明 正木 弘明 伊原 立子 足立 優 京都 北川 勝己 渥美 照男 惣洞 義司 惣義 胡信隆 久谷 明常 森谷 悦次郎 小野田 正明 渡辺 美智男 宮島 美智男 【愛知】 高津 政巨 津上 利夫 研村 上博 高津 政巨 赤尾 善司 高田 吉保 高田 芳憲 【石川】 片口 和美 高橋 哲夫 高山 美喜子 山野 弘

⑬⑩⑨④【愛媛】 ⑤③③③【山口】 ①②⑨⑥⑥①⑤⑩⑨⑨【岡山】 ②②①⑤②③②③【島根】 ②③②③①⑨【鳥取】 ①①【奈良】 ②⑥②④②①⑤【兵庫】 ②⑤⑧  
 高岡 君夫 岡池 延次 菊本 郁二 堀田 純二 本田 一純 金子 潔 内海 二雄 山口 桑原 正雄 益田 逸二 吉清 弘治 廣島 只松 巧夫 藤原 松夫 別所 万喜一 所塩 夫 藤原 只松 清野 弘治 清野 弘治 藤原 只松 藤原 只松 白築 ミエ子 安藤 知子 【島根】 渡辺 孝道 佐藤 徳太郎 上田 博子 鳥取 富美子 古谷 富美子 奈良 福井 寛行 西浦 英子 岩本 佐知子 加藤 信二 兵庫 上藤 信二 上地 もり子 伊藤 伸史

②④①⑤①⑤⑨⑨⑧⑦【鹿児島】 ②④①⑤①⑤①③⑧⑤【宮崎】 ⑥④④【大分】 ②⑥②④④【熊本】 ③④③③③②③⑨⑨【高知】 ②⑦②⑤②①②④①⑤①⑤①⑤⑧⑦  
 折田 佳代子 平川 康興 鎌田 太郎 加治木 直昌 内山 重徳 平谷 資利 中島 義徳 鹿児島 安子 鹿儿岛 岐部 勝利 本部 保男 谷口 和喜江 浅岡 善彦 興梠 善彦 阪衛 陸子 阪衛 克巳 宮崎 新進 川崎 進吉 丹羽 清隆 大分 馬原 隆雄 吉丸 民雄 古家 勇 熊本 吉本 京子 村田 幸代 長崎 橋口 晴喜 佐賀 橋口 晴喜 高知 松田 昇 高知 上甲 修三 加藤 尚夫 藤沢 政夫 伊藤 史

⑤⑥③③③③②⑨②②①⑨①⑤【沖縄】  
 平仲 直 東長 隆 玉城 秋彦 山城 政美 山城 和行 長城 孝子 金城 正春 池原 秀明 宮平 一郎 廣瀬 町子 富山 正直 杉山 博茂 職員



# 鯉淵学園60周年記念事業募金 期別目標額・実績表

平成17年9月1日現在 単位：円

卒業期	会員数	目標額	9/1 現在 実 績	目標比	卒業期	会員数	目標額	9/1 現在 実 績	目標比
1	49	161,700	100,000	61.8%	31	91	300,300	370,000	123.2%
2	94	310,200	530,000	170.9%	32	111	366,300	153,700	42.0%
3	103	339,900	320,000	94.1%	33	126	415,800	200,000	48.1%
4	90	297,000	545,000	183.5%	34	115	379,500	67,000	17.7%
5	71	234,300	475,000	202.7%	35	114	376,200	150,000	39.9%
6	27	89,100	181,000	203.1%	36	114	376,200	60,000	15.9%
7	74	244,200	450,000	184.3%	37	89	293,700	60,000	20.4%
8	78	257,400	195,000	75.8%	38	81	267,300	60,000	22.4%
9	100	330,000	950,000	287.9%	39	78	257,400	28,000	10.9%
10	103	339,900	470,000	138.3%	40	65	214,500	30,000	14.0%
小 計	789	2,603,700	4,216,000	161.9%	小 計	984	3,247,200	1,178,700	36.3%
11	78	257,400	460,000	178.7%	41	69	227,700	20,000	8.8%
12	55	181,500	230,000	126.7%	42	54	178,200	40,000	22.4%
13	89	293,700	290,000	98.7%	43	95	313,500	20,000	6.4%
14	91	300,300	250,000	83.3%	44	93	306,900	80,000	26.1%
15	91	300,300	455,000	151.5%	45	99	326,700	50,000	15.3%
16	73	240,900	170,000	70.6%	46	73	240,900	50,000	20.8%
17	63	207,900	350,000	168.4%	47	62	204,600	50,000	24.4%
18	55	181,500	130,000	71.6%	48	71	234,300	30,000	12.8%
19	96	316,800	387,500	122.3%	49	81	267,300	50,000	18.7%
20	85	280,500	220,000	78.4%	50	96	316,800	40,000	12.6%
小 計	776	2,560,800	2,942,500	114.9%	小 計	793	2,616,900	430,000	16.4%
21	89	293,700	130,000	44.3%	51	127	419,100	50,000	11.9%
22	132	435,600	155,000	35.6%	52	94	310,200	40,000	12.9%
23	163	537,900	530,000	98.5%	53	121	399,300	60,000	15.0%
24	152	501,600	350,000	69.8%	54	113	372,900	70,000	18.8%
25	170	561,000	440,000	78.4%	55	93	306,900	90,000	29.3%
26	143	471,900	290,000	61.5%	56	82	188,600	80,000	42.4%
27	117	386,100	240,000	62.2%	小 計	630	1,997,000	390,000	19.5%
28	90	297,000	70,000	23.6%	通 他	876	2,890,800	638,000	22.1%
29	82	270,600	120,000	44.3%	賛 助	12	34,500	10,000	29.0%
30	89	293,700	182,000	62.0%	職 員			430,000	
小 計	1,227	4,049,100	2,507,000	61.9%	小 計	888	2,925,300	1,078,000	36.9%
					合 計	6,087	20,000,000	12,742,200	63.7%

# 鯉淵学園60周年記念事業募金 都道府県別目標額・実績表

平成17年9月1日現在 単位：万円

支部名	会員数	目標額	9/1現在 実績	目標比
北海道	269	98	45	45.9%
青森県	69	16	8	50.0%
岩手県	184	69	38	55.1%
宮城県	91	38	18	47.4%
秋田県	109	43	18	41.9%
山形県	204	40	20	50.0%
福島県	255	53	28	52.8%
小計	1,181	357	175	49.0%
茨城県	905	270	250	92.6%
栃木県	234	79	41	51.9%
群馬県	126	44	29	65.9%
埼玉県	189	70	36	51.4%
千葉県	206	72	40	55.6%
東京都	128	46	46	100.0%
神奈川県	107	47	17	36.2%
小計	1,895	628	459	73.1%
新潟県	280	90	40	44.4%
富山県	104	29	39	134.5%
石川県	58	22	8	36.4%
福井県	179	39	27	69.2%
小計	621	180	114	63.3%
山梨県	31	16	13	81.3%
長野県	297	90	48	53.3%
岐阜県	52	27	8	29.6%
静岡県	96	30	23	76.7%
愛知県	101	39	22	56.4%
小計	577	202	114	56.4%
三重県	47	19	28	147.4%
滋賀県	58	18	10	55.6%

支部名	会員数	目標額	9/1現在 実績	目標比
京都府	105	48	33	68.8%
大阪府	54	24	10	41.7%
兵庫県	134	68	30	44.1%
奈良県	15	10	6	60.6%
和歌山県	41	9	2	22.2%
小計	454	196	119	60.7%
鳥取県	64	15	8	53.3%
島根県	163	33	17	51.5%
岡山県	68	23	8	34.8%
広島県	112	34	14	41.2%
山口県	79	45	17	37.8%
小計	486	150	64	42.7%
徳島県	25	9	1	11.1%
香川県	30	12	4	33.3%
愛媛県	52	17	15	88.2%
高知県	40	13	8	61.5%
小計	147	51	28	54.9%
福岡県	52	23	11	47.8%
佐賀県	73	22	10	45.5%
長崎県	51	19	4	21.1%
熊本県	82	34	18	52.9%
大分県	43	17	14	82.4%
宮崎県	130	37	19	51.4%
鹿児島県	139	49	26	53.1%
沖縄県	156	33	52	157.6%
小計	726	234	154	65.8%
海外	18	2		0.0%
職員他			47	
合計	6,105	2,000	1,274	63.7%



# 学生募集への協力依頼

同窓生の皆様には、いつも大変お世話になっており、感謝申しあげております。十八年度学生募集は、これまで、四回、オープンキャンパス（鯉淵学園見学会）を開催、全国から九十二名の高校生が参加しました。また、教職員による高校訪問は今年度延べ、三〇〇校以上を数えており、これまで以上に力を入れておるところです。

しかしながら、ここ数年の入学者の状況は、十四年度八十八名、十五年度一〇八名、十六年度八十一名、十七年度八十四名と、定員割れ（定員百二十名）を余儀なくされておりますが、来春は、是非とも定員を満たしたいと全教職員があらゆる努力をしております。

今、学園では、作ることに食べることをすなわち「種まきから食卓まで」をキャッチフレーズに学生募集を行っております。将来、農業分野や栄養分野での活躍を望んでいる若者の多くが、この鯉淵キャンパスで学んでほしいと思っております。私どもは、入学された学生を無事卒業するまでは当然のこと、その先の進路についても親身にお世話をいたします。いつもお願いばかりで恐縮ですが、学生募集については是非とも同窓会の方々のお力添えをいただきたくお願いいたします。同窓生の皆様の「推薦書」を入学願書に同封いただきますと、「優先入学」として取り扱います。「優先入学」として

事務部長 國府田敬二郎

願書」要項を用意しておりますので、本学の事務部教務係までご連絡ください（すぐお送りいたします）。どうぞよろしくお願いいたします。

## 人事異動と運営体制について

### (一) 人事異動について

#### 【十七年三月退職者】

教授 安藤 義道  
事務部長 清水 道夫  
助手 播田実かおり  
主事補 野澤 ゆう  
中根 千春  
大鳥 恵里香

#### 【十七年度採用者】

助教授 井上 洋一（農業経営科学科）  
嘱託教授 浅野 昭（農業経営科学科）  
次長 堀口 昌宏（事務部）  
次長 小松崎 靖（事務部）  
主事 大圖 清（事務部直売所店長）  
助手 上野 あき（生活栄養科学科）  
嘱託助手 大場 真紀（生活栄養科学科）  
主事補 小林 優（研修科）  
木村 万里（学生生活部）

### (二) 新運営体制について

（科・課長以上変更者のみ）

農場部長 山本英治教授（前任学園長兼務）  
事務部長 國府田敬二郎（前任清水道夫）  
研修科長 小沼和重教授（前任安藤義道）  
作物・園芸課長 及川隆光教授（前任小沼和重）

浅野 昭（あさの あきら）

- ① 嘱託教授
- ② 花き園芸・卒業論文指導
- ③ 茨城県



〈抱負〉  
学園の教育方針「農業を担う実践者等を養成する」を基本に、科学的・実践的な内容の講義・特研課題・実習を学生と共に追求して行きたい。

井上 洋一（いのうえ よういち）

- ① 助教授
- ② 農業社会・卒業論文指導
- ③ 大阪府 羽曳野市



〈抱負〉  
平成十一年東京農業大学大学院博士課程修了後、同大学助手、短期大学非常勤講師、高等学校教諭等を経まして、このたび、五月一日付で奉職させて頂いた。専門分野は「農村社会学」。「農業協同組合論」「地域（農村）福祉政策論」等でございます。これまで多くの農村を歩き廻り、日本の農業・農村の実態、問題点を肌で感じてまいりました。この経験を授業に反映させ、多くの学生に伝えることができよう努力してまいります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

- ① 役職
- ② 主な担当
- ③ 出身地

よろしく  
お願ひします!!  
学園新スタッフの  
自己紹介

上野 あき（うえの あき）

- ① 助手
- ② 実習・学生食堂
- ③ 東京



〈抱負〉  
今年の四月から鯉淵学園に着任いたしました。上野あきと申します。生活栄養科学科の助手と学生食堂の栄養士として仕事をさせていただいております。鯉淵学園はたくさんの自然に囲まれ一般的に栄養士養成校と違い、食べ物育てる現場とともに栄養士の教育が行われており、栄養士として重要な食べ物の知識や、食べ物大切にすることが養われていることを強く感じました。私自身も今まで、食べ物育てる現場をあまり見る機会がなかったので、これから「食べ物」について勉強していきたいと思っております。早く学園に慣れるようがんばりますので、よろしくお願ひいたします。



大場 真紀 (おおば まき)

- ①嘱託助手 ②実習 ③茨城県  
〈抱負〉

今年四月より週に数回、生活栄養科学科の嘱託助手として勤務しております。仕事の具体的な内容は、今のところ、主に食品実験棟全体の掃除、実験器具の整理、試薬の整理・管理などです。学生の方々と顔を合わせる事がほとんどありませんが、実験実習が円滑に進むよう、影から支えていきたいと思っています。どうか宜しくお願い致します。



小松崎 靖 (こまつぎき やすし)

- ①次長 ②事務部  
③茨城県水戸市

〈抱負〉

私は、今年四月より株式会社常陽銀行から出向で当学園に配属となりました。

三十年間銀行員生活を送り、今度は、銀行の外側から銀行を見る立場になりました。(株)常陽銀行では、最近、アグリビジネスに注目しており当学園で学んだ事などで役に立つものがあれば情報提供をして行きたいと考えております。当学園に着任して、学園の風景や学生さんの挨拶などとても新鮮なものを感じております。今注目されている「農業」の担い手を育てている当学園の良さを大いにPRして行きひとりでも多くの学生さんが学園に入学してもらえようがんばります。

大圖 清 (おおず きよし)

- ①主事 ②農産物直売所  
③茨城県



〈抱負〉

鯉淵学園農業栄養専門学校にきて五ヶ月、あつという間に過ぎていき

ました。毎日が新しい仕事なので戸惑う日々を送っています。この五ヶ月実感したことは、職員と生徒達が協力しあつて物事に取り組んでいることです。ただ授業にでて、黒板に書いてある知識を得るだけでなく、外に出て生産者という形で、技術も学べるということとはとてもいい体験ができていると感じました。

今年の九月に直売所が始まります。この中でも学生達と協力しあい、売立場、消費者の立場にたち、安全安心な直売所にしていきたいと思ひます。今は辛いと思うこともありすが、今やつていることが必ず自分の糧となり将来役立つと信じ、日々努力をし、初心を忘れず生徒達に頼られるような職員になりたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



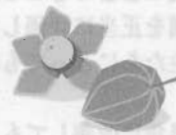
堀口 昌宏 (ほりぐち まさひろ)

- ①次長 ②事務部 ③東京



〈抱負〉

農林水産省勤務で培つた経験と皆様方のご協力を得ながら学園の発展に尽力して参る所存です。



杉田理恵子 (すぎた りえこ)

- ①主事補 ②図書館 ③茨城県



〈抱負〉

私は水戸市で育ち、今は友部町に住んでおります。昨年十一月より図書館司書の資格は学生時代に取得しました。その後、図書館で働きたいと思つておりましたが機会がありませんでした。鯉淵学園には十年程前にパートで勤めたことがあつた縁で、この度、幸いにも希望が叶つた次第です。まだまだ不慣れですが、学生の皆さんが楽しく有意義に利用できる図書館を目指していきたいと思つております。気軽に声をかけ下さい。

小林 優 (こばやし すぐる)

- ①主事補 ②農業体験学習  
③東京都



〈抱負〉

自分は今まで学生として学園で動物について学んできました。今年からは研修科の職員として小中学生の農業体験学習を担当したり、農場で働かせていただくことになりました。精一杯努力し勉強して一日も早く皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思ひます。



木村 万里 (きむら まり)

- ①主事補 ②学生食堂 ③茨城県



〈抱負〉

昨年度までは学生でしたが、今年度からは職員として学生食堂での食事の提供と共に自身自身の技術・精神面の向上を目標として日々努力をしていきたいと思ひます。これから一年間よろしくお願ひいたします。

## ご案内

### 第10期生会

- 日時 平成17年10月14日(金)  
午後3時～・15日(土)  
受付14:30～
- 場所 地方職員共済組合「猿沢荘」  
奈良市池之町3  
☎0742-22-5175

### 第24期生会

- 日時 平成17年11月5日(土)・6日(日)  
受付15:00～ 開催18:00
- 場所 岡山プラザホテル  
岡山市浜2-3-12  
☎086-272-1201

### 第35期生会

- 日時 平成17年11月5日(土)  
受付17:00～ 開催18:00
- 場所 友部グリーンビュー  
友部町旭町305  
☎0296-78-1122
- 幹事 茨城県35期の会

### 鯉淵学園60周年記念 近畿のつどい

- 日時 平成17年11月19日(土)・20日(日)  
19日13:30～ 20日9:00～
- 場所 パレス神戸  
(JR阪神元町駅下車・西口より北へ徒歩約5分)  
神戸市中央区下山手通5丁目1番16号  
☎078-371-7800

## 情報をお寄せ下さい 鯉淵学園農業栄養専門学校

市町村に務めている方で、市町村の合併に関わって給与待遇の不利益を被っている方がおられます。

合併前の町では、初任給時に、鯉淵学園の学歴を「短大3年卒」に位置づけられていましたが、合併後の市では「鯉淵学園の3年間」を学歴として見てもらえず、「高卒」に格下げされた、という事例です。

国家公務員の待遇を定めている「人事院規則」では、昭和46年までは、鯉淵学園は「短大2年卒」、昭和47年以降は「短大3年卒」に位置づけられ、平成13年からは「大学4年卒」と改善されています。

しかし、市町村によっては鯉淵学園の存在を知らず、あるいは専門学校自体を学歴と見なさない古い制度のままのところがあると思われます。市町村の人事部課において鯉淵学園を正当に評価してもらえませんか、これから就職しようとする後輩学生たちにとっても極めて不利となります。

格下げされた事例については、早急に改善してもらえるよう、鯉淵学園としてできるだけ対処をいたします。こうした事例で困っておられる方がありましたら、鯉淵学園まで情報をお寄せください。その時代の人事院規則の「学歴区分表」をお送りしますので、改善対策にお使いください。また、全国の同窓会のお力も借りて参りたいと思います。

## 三号教室棟が完成しました

昭和39年から平成16年まで、40年間の長きに渡り活躍しました、家庭管理実習室(生活科総合教室)を老朽化により取り壊し、跡地に国庫補助を受けて、延べ面積260.44㎡(約79坪)、約120名収容の三号教室棟(大教室)が、平成17年3月に完成しました。



## 編集後記

「男児志を立てて郷関を出ず。学若し成る無くんば死すとも還らず。骨を埋むる豈惟墳墓の地のみならんや。人間到る処に青山有り。」

※解説 男児が一旦志を立てて故郷を出るからには、学業がもし成就しなかつたら死んでも帰ってこないつもりである。自分の骨を埋めるのは、何も祖先墳墓の地だけであろうか。人間は何処にでも活躍すべき美しい青山(天地)があるのだ。そこに我が骨を埋めてもらえば満足である。

これは詩人「釈月性」の詩である。今から十年ほど前になろうか、前神奈川県支部長の北村康祐氏(二期・故人)より教えて頂いた。

この詩を思い出したり目にする事があると、いつもその時その時の学生、そして卒業生の姿が目に見える。何故か学園生に「ピタリ」とあてはまる様に思えて仕方がない。さらには自分自身への戒めとしても忘れることなく心に刻んでおきたいものである。

編集委員 秋葉 勝矢

